



文化から東京の未来を切り拓く——。この文化ビジョンにはそんな思いが込められています。

東京には長い歴史に支えられた伝統文化が息づいています。同時に、世界トップレベルのオーケストラの演奏会、各国の名画の並ぶ展覧会が毎日のように開かれています。歌舞伎や能など日本の伝統芸能ばかりかオペラやバレエなどの西洋芸術、実験的・先端的な現代芸術も盛んで、東京発のアニメ、ゲーム、デザイン、ファッションなどは、常に世界から注目を集めています。ミシュランレストランが世界で最も多い都市、それも東京です。このように東京には既に大きな文化的ポテンシャルが存在しています。それをより確実なものにし、発展させていくこと、それがこの文化ビジョンのねらいです。

オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年は、文化の発展にとって大きなチャンスになります。オリンピック・パラリンピックはスポーツだけでなく文化の祭典でもあるからです。オリンピック憲章の根本原則に謳われる「スポーツを文化や教育と融合させる」ことは、近代五輪の祖クーベルタンの理念でした。

東京都はオリンピック・パラリンピック

の招致を機に、文化政策や文化事業を大幅に強化してきました。2020年には、過去最大と言われる2012年のロンドン大会をしのぐ文化プログラムを実施すべく準備を進めています。しかし、これを一回限りの大規模な文化イベントで終わらせてはなりません。2020年大会のレガシーとして東京を世界のどこにもない文化都市にする。この冊子には、そのための戦略が描き込まれています。

芸術文化は都市の発展になくはならないものです。最近、その社会的なインパクトの大きさや裾野の広さに注目が集まっています。教育や福祉、地域活性化などの分野において、芸術文化が大きな成果を上げ、障害者の芸術表現にも未知の可能性が秘められています。創造産業の成長や文化振興にも芸術文化の果たす役割は小さくありません。都市に新たな活力やエネルギーを与え続ける存在、それが芸術文化です。

この文化ビジョンは2015年から2025年までの10年間をターゲットにしています。都民の皆さま、区市町村や関係機関、民間企業、NPOの方々々と手を携え、独自性と多様性を秘めている東京固有の文化価値を育て、世界のどこにもない活力に満ち成熟した文化都市を創り出していきましょう。

多彩で奥の深い文化都市・東京

歴史に培われた文化の多様性

東京は、多彩な文化に満ちた都市である。近年では先端的なファッション、デザイン、アニメなど、新しい文化の発信地として知られている。しかし、こうした印象を持って訪れる海外からの観光客は、新しい文化と並んで、いにしへの神社仏閣が残り、能や歌舞伎、落語のほか、工芸や祭りなど多くの伝統文化を保っていることに驚かされる。

東京は、日本のソフトウェアや情報産業の売上の半数以上を占めている。一方、歌舞伎座、国立能楽堂など、伝統芸能のための文化施設が集中している。

多様な文化的要素の集積は、街の構成にも現れており、原宿、秋葉原、浅草のような文化的に特色のある街が多数存在し、独特の活力を持っている。

東京の文化は、しばしば、「伝統と現代の共存」という異なるものの対照として評価される。しかし、そうであるばかりではなく、実は、世界から注目を浴びているファッションやデザイン、ポップカルチャー等における日本独特の感性は、古来の伝統の中で培われてきている。東京の「伝統と現代」は、時間的にも空間的にも連続性があるのである。

数千年の昔から、日本は地震や洪水など、幾多の自然災害に見舞われてきており、粘り強い復興への努力を重ねてきた。海、山、川、大地からの豊かな恵みも、人々の自然への畏敬を帯びた働き掛けと、不断の生活の営みから獲得してきたものである。この歴史的な堆積が「道を極める」精神性や、五穀豊穡を願う芸能を生み出してきた。

さらに、多岐にわたる外来文化を洋の東西を問わずに時代ごとに受容しながら、日本の風土の中で独自の伝統文化を形成、熟成させ、発展させてきた。こうした、様々なも

のを受容し、自然をはじめ万物への畏敬の念を持ち、多様なものの融合や協調を図る精神性が、日本文化の創造性の根源にある。

歴史の中で築かれた文化による市民の結びつき

東京の文化は中世から近世にかけて、京都、大阪などの関西地域で花開いた文化の伝統を受け継いでいる。寺院建築、仮名文学、絵巻物、茶の湯、能楽などがよく知られている。東京の前身である江戸は武士のまちであったが、平和が保たれ、町人たちによる独特の文化が顕著な発展を見せた。歌舞伎や浮世絵が有名だが、これは、一般市民の生活の中に世界的に評価される高度な文化が花開いたという点で、異例とも言える文化である。

江戸時代の文化の発展は、一般市民の広範な結びつきに多くの部分を支えられている。文化によるつながりが、種々の政治的な制度とは別に社会形成の大きな力となっていく。これは、「美と礼節の絆」とも呼ばれ、日本人の礼儀正しさや真摯さ、感性の繊細さなどの一因である。それは、来客に対する心のこもったもてなしの精神にもつながっているだろう。

江戸時代には、市民の間に和歌や俳諧、茶の湯や華道などの趣味を同じくする人の集まりが無数に存在し、多くの人が美的な感性を磨いた。それらの趣味を通じて、身分を越えた交流も行われた。

浮世絵や江戸歌舞伎などは、江戸時代の庶民の生活＝大衆文化から生まれたものである。そのため、活力のある市場が存在し、それが文化の質を高めていった。当時は決して高級芸術のようなものではなかったが、江戸の顧客たちからより高度な技術や内容が求められる中で発達し、世界的に稀



有な芸術が生み出されたのである。

このような職人たちの技術の高さと消費者の目の厳しさは現代にも通じるものである。現代でも伝統芸能の職人数は日本で最も多い。それが近代に至って高品質の工業製品やデザインを生み出すことにもつながった。

「創造者＝消費者」文化の活発化

東京は、一人ひとりが芸術家であり鑑賞者＝消費者でもあるという歴史を持っている。

天皇が千年余りの間お住まいであった京都から皇居にお移りになった明治以降には、華道や茶道などの人口は更に増大した。このような市民の創作活動は現在も盛んであり、例えば、日本の有力新聞には俳句の欄があり、詩人である多数の読者が存在することがうかがわれる。幼少期からピアノ、ヴァイオリン、バレエ、書道などを習う子供は多い。また、市民たちが創作した作品の発表活動も活発に行われている。現在注目を浴びている漫画・アニメなども、庶民の生活から生まれたものと言うことができる。東京では、大規模な同人誌の即売会が開催され、同じ趣味を持つ人々の交流の場となるとともに、次世代の作家を育む場ともなっている。

このような巨大な文化の土台が存在するゆえに、新たな作品が次々と生み出されているのである。

新たな文化の力と可能性を提示する都市・東京

東京は、極めて多くの文化の在り方を提案する都市である。1つの中心や規範が全てを圧倒するのではない。「テクノ・アニミズム」と呼ばれるように、自然や動物のみならず、機械や技術など様々なものに関心を向け、愛情を注ぐ。このように寛容で自由な文化の在り方こそ、「クール」と呼ばれる理由の一つである。

このような柔軟性がある東京では、伝統文化を楽しむこと、また世界各国の文化を受け入れることも盛んである。例えば、隅田川などで行われる花火大会のように、江戸から受け継ぐ伝統行事では、多くの人が浴衣を着て、団扇を持って街を歩くという、伝統的な空間が出現する。各地では古くから伝わる祭りが年間を通じて行われ、盆踊りが地域を活性化させている。ミシュランから評価を得ている多様で洗練された食文化は、世界の食を受け入れ、研究し、改良してきた成果でもある。

グローバル化が進む今後の世界を考えると、文化を通じて、人々の新しい結びつきを生むとともに、多様な価値を受け入れつつ創造を行うという東京が育んできた文化の様式は、ますます重要な意味を持つと考えられる。文化の新たな力を提示可能な都市として、東京の果たす役割は大きい。

東京文化ビジョンの性格及び理念

ビジョンの性格

- 東京都の芸術文化振興における基本指針
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム^{*1}の先導的役割
- 国際的に発信する東京の文化政策の世界戦略

ビジョンの理念

東京独自の芸術文化が持つ 多様性を発信する

東京は、日本古来からの精神に裏打ちされた文化に加えて、江戸開府以来、人々が往来する中で多様な芸術や文化を受け入れ発展してきた。このような伝統と現代、東洋と西洋が交錯する都市東京は、世界のどこにもない多彩で奥の深い文化都市である。こうした独自性と多様性が秘められている東京が持つ固有の文化価値を東京のブランド^{*2}として内外に強く打ち出していく。

東京の更なる成長の柱として 芸術文化を位置づける

東京には、多彩な文化的特徴を持ち、個性あふれる文化施設や都民の暮らしに根ざした伝統文化など潜在的な力に満ちた数多くの地域が存在する。東京が更なる成長を続ける上では、芸術文化を都市の装置として重要な構成要素に位置づけ、質的な豊かさの向上とともに経済の活性化を図り、活力に満ちた世界のどこにもない成熟した文化都市を目指していく。



オリンピック・ パラリンピックを契機に 有形・無形の文化レガシー^{*3}を 創出する

2020年オリンピック・パラリンピックは、東京の芸術文化振興を飛躍的に推し進め、東京を世界でも類を見ない独自性を持つ文化都市とする大きなチャンスである。そのため、2020東京大会においてこれまでにない多彩で魅力的な文化プログラムを展開することにより、「人」、「仕組み」、「場」といった有形・無形のダイナミックなレガシーを創出し、次世代に継承していく。

^{*1} 国際オリンピック委員会 (IOC) の「オリンピック憲章」では、「短くともオリンピック村の開村期間、複数の文化イベントを計画しなければならない。」と定義されている。

^{*2} 東京という都市を他の都市から区別させるもの一つに「東京の芸術文化」を挙げることができるということ。

^{*3} 国際オリンピック委員会 (IOC) によると、レガシーとは「長期にわたる、特にポジティブ (肯定的) な影響」と規定されている。五輪大会の開催を契機に施設や道路が整備されることと同様に、芸術文化の分野においても、文化プログラムの展開が、次代の担い手育成や様々な仕組み作りにつなげていくことを示している。



**東京を舞台にあらゆる人々の交流と
世界中の芸術家の創造活動を
促進し、芸術文化の力を
世界平和の実現につなげていく**

昨今の芸術家は、社会課題と積極的に向き合い、芸術文化ならではの解決方法を生み出す取組を展開している。芸術文化の力は、福祉や教育、地域振興などの社会課題の解決に資する可能性も秘めている。今後は、東京を舞台に、子供や障害者など世界のあらゆる人々が芸術文化を通し交流するとともに、世界中の芸術家が東京を訪れ創造活動を行うことにより、国境を越えた相互理解と地球規模の連帯感を育み、世界平和の実現へとつなげていく。

**芸術文化の力で東京を変える
取組を全国に広げ、文化が牽引する
新たな日本をあらゆる人々の力を
結集して創出する**

東京は、芸術文化資源を再構築し、新たな可能性を顕在化させることにより、都市としての価値を高め、魅力ある都市として将来に向けて発展し続けることができる。こうした取組を東京だけでなく全国に広げるとともに、国内での文化的交流を加速させ、芸術文化により世界から注目を集める新しい日本を作っていかなければならない。そこで、都、国、自治体をはじめ、芸術家や芸術文化団体、NPOや大学、都市開発事業者等の企業、都民や来訪者など、あらゆる人々や団体が、この文化ビジョンを実現するための担い手として不可欠な存在であることを呼び掛け、連携の構築や強化を推進していく。

東京文化ビジョンの文化戦略と主要プロジェクト

世界に提示する8つの文化戦略

文化戦略が目指す方向性

文化戦略 1

伝統と現代が共存・融合する
東京の独自性と多様性を追求し、
世界発信

- 伝統と現代が共存・融合する東京の芸術文化の魅力を、より一層世界に浸透させていく。
- 東京の独自性の源泉ともいえる伝統文化を次世代に引き継ぎ、保存、継承、発展させていく。

文化戦略 2

多彩な文化拠点の魅力向上により、
芸術文化都市東京の発信力を強化

- 多彩な文化的特徴を持ったそれぞれの地域において、芸術文化を都市の装置として機能させ、文化拠点として場の魅力を向上させる。

文化戦略 3

あらゆる人が
芸術文化を享受できる
社会基盤を構築

- すべての子供や青少年、障害者が芸術文化を享受できる仕組みを推進し、世界をリードする成熟都市として、都市の豊かさを創出する。

文化戦略 4

新進若手を中心に多様な人材を
国内外から発掘・育成、新たな創造と
ビジネスのチャンスを提供

- 世界を牽引し文化面で東京の活力を創出する新たな才能、人材の発掘や育成を、国際的な視点から展開していく。
- 国内外の才能ある芸術家やデザイナーなどを積極的に受け入れ、活動の場を提供することにより、彼らが

文化戦略 5

都市外交を基軸に
芸術文化交流を促進し、
国際的な競争力を高める

- 国際的な発信力の高いフェスティバル等の構築とともに、アジアにおける芸術文化市場のハブ機能を強化し、拠点としての地位を堅持することによって、都市としての価値を高め、国際的な競争力を向上させていく。

文化戦略 6

教育、福祉、地域振興等、
社会や都市の課題に、
芸術文化の力を活用

- 芸術文化の力を活用して、教育、福祉や医療、地域振興等の領域における課題の解決に貢献していく。

文化戦略 7

先端技術と芸術文化との融合により
創造産業を発展させ、
変革を創出

- 時代を牽引する革新的な技術による新しい芸術文化の創造、流通、鑑賞・体験の可能性を追求する。

文化戦略 8

東京が持つ芸術文化の力で、
都市力を引き出し
史上最高の文化プログラムを実現

- 2020年五輪大会を機に、都市自体を劇場とした、先進的で他に類を見ない東京の活力を象徴する文化プログラムを展開し、世界に向けて東京の魅力を発信する。

2020年を越えた取組

2020年に向けた取組

東京文化ビジョンを実現する10の主要なプロジェクト

- 変貌し続ける現代社会における伝統の価値を見直し、その潜在力に新たな光を当てる。

- 世界の様々な人々に東京の芸術文化の魅力を理解してもらえよう、多様な特徴を持つそれぞれの拠点を際立たせ、東京全体の魅力を向上させ発信する。

- 文化施設において子供や高齢者、障害者、外国人など、様々な人々がストレスなく芸術文化に触れることができる環境を整える。

- すべての都民が創造活動に参加でき、都民の主体的な活動が豊かな社会の未来につながっていく。

魅力を感じて自然と集まる世界的な拠点とし、文化都市としての実力とその更なる可能性を高めていく。

- 才能ある芸術家の革新的な表現を可能にすることや、その表現活動を経済的に発展させていく取組を支援する。

- 海外の主要な文化機関・組織とのネットワークを発展させ、異文化間の相互理解の継続的な促進を図り、文化面での都市外交を推進する。

- NPO や企業等、様々な組織と協力・連携関係を構築し、社会問題の解決を推進する先駆的、実験的な取組を積極的に支援していく。

- 才能ある多様で創造的な人材とグローバル企業との新たな出会いを推進し、東京の経済成長を牽引する創造産業の振興を促進させ、変革を促す寛容性の高い環境を創出する。

- 2020 年に向けた取組を、オリンピック・パラリンピックの開催によって創出する有形・無形のレガシーにつなげていくとともに、それを次世代に継承し、世界一の文化都市東京を実現する。

大規模フェスティバル(芸術祭)を展開、世界発信

伝統芸能、演劇、美術などあらゆる分野の芸術を集結させた都市型総合芸術祭を構築。いくつかの文化施設を核とした展開を図るとともに、小劇場や公共空間など、東京全体としての演出を行い、芸術分野の壁を越えたフェスティバルを構築

子供や外国人に向けた本物の伝統芸能体験による伝統文化の継承と発信

能楽、邦楽、落語、茶道等、幅広く学校と連携した都内全域を対象とする小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムや、海外からの来日時に短時間で鑑賞・体験が可能なプログラムを展開

多彩な芸術文化拠点の魅力向上と世界発信

上野、池袋、渋谷、六本木、東京駅周辺、港・品川開発エリア、臨海部、両国・深川、多摩・島しょ等の魅力を向上し、世界へ発信

すべての子供や青少年が芸術文化に関わることができる大規模な「教育プログラム(仮称)」を展開

都立文化施設をはじめ、児童館や公民館など、多様なジャンルのアーティストとの交流や多彩な芸術文化体験ができる「場」を創出

「首都圏芸術文化施設ネットワーク(仮称)」の推進

上野において、芸術文化施設の連携により共通入場券の仕組みを導入。夜間集客数の拡大に向け、共通イベントの実施を提唱

障害者アートへの支援や障害者の鑑賞・参加を促す活動の推進等、文化の面でバリアフリーな都市として認知される取組の展開

東京都現代美術館に「アールブリュット」発表の場を設置するとともに、障害者の芸術創造活動や鑑賞・参加を促す NPO 等の活動を支援

若手の登竜門としての新人賞等の創設など、才能ある新進若手人材の積極的な受け入れや

海外進出への支援

新進芸術家の国際的活動を支援する新人賞等の創設や奨学金等を活用した海外進出を支援。継続的に人材を育成

都市外交の基軸に芸術文化を位置つけた都市間交流の拡充

欧米各都市と現代美術、舞台芸術等による交流を拡充し、アジア都市とも博物館の文化交流等を促進

芸術文化の力を活用した東北の被災地支援や

全国の地域づくりへの支援

地域のにぎわいを創出する芸術家やNPOなどの取組を全国に展開

リオ大会以降に展開される文化プログラムを先導する「リーディングプロジェクト」を国内外で展開

多様な分野の芸術家が参加する「東京キャラバン(仮称)」、大規模な「障害者アートプログラム」、リオ五輪での日本文化の紹介・発信、アーティスト・イン・レジデンスの整備などを展開